



垣花学先生の麻醉科学教室教授就任記念同期会

5 期生同期会 伊志嶺 朝 彦 (中頭病院 呼吸器内科)

本年5月1日に我々琉球大学医学科同窓会の長年の願いであった、『同窓生からの母校の教授』が誕生しました。皆様もご存知の麻醉科学講座の垣花学先生です。

今回、バレー部OB (学先生と私もバレー部でした) と同窓会有志主催で行われた5月31日のラグナガーデンホテルでの【教授就任 垣花学先生を囲む会】と7月20日同ホテルで行われた【第22回の琉球大学医学科同窓会での教授就任記念講演と懇親会】の様子についてご紹介します。

本年5月1日付けで麻醉科学講座の教授に就任するという話を聞いた (バレー部の先輩でもある) 同窓会会長の蔵下要先生を発起人として、是非とも早急に学先生の教授就任を祝いたいという有志が5月31日のラグナガーデンホテルでの【教授就任 垣花学先生を囲む会】に県内外から集まりました。(南風 (ふえ〜) Vol.22, No.1の表紙に集合写真が掲載されています)

歴代同窓会会長からのお祝い言葉と今後への期待や激励、同期生や部活の後輩からのユーモアいっぱいの挨拶で大変盛り上がりしました。ここでその際の私の挨拶でも述べた学先生の学生時代のエピソードを一つ紹介します。学先生は、私たち同期生が卒業試験や国試の勉強で必死な時でも、常に生理学など基礎の本を図書館で読んでいました。【不確かなことや疑問を残さず、きっちり基礎に立ち返って理解を深める】という姿勢に驚きましたが、『学だからな』と納得させられました。そのような積み重ねの二十数年が今回の垣花教授誕生につながったのは間違

いありません。二次会はバレー部OBを中心に集まり、昔話に花を咲かせて楽しいお祝いの場になりました。7月20日の教授就任記念講演会では【研究からSerendipity】という題目で講演をいただきました。研究の話は、学先生が第一人者である『脊髄虚血のマウスモデル作成とその応用』の話を我々素人にもわかりやすく解説してもらいました。

一方のSerendipityは初めて聞く言葉でした。『探しているものとは別の価値のあるものを見つける能力、才能』のことだそうで、学先生の講演では『大学で基礎研究や臨床研究を行うことがSerendipityを鍛えることになる。そして、そのSerendipityを医師人生で生かしてもらいたい。そのようなことができる大学の魅力を是非若い医師に伝えてもらいたい』という趣旨のお話を聞き非常に感銘を受けました。

その後の懇親会でも全国の同窓会支部の先生方や歴代の教授からのお祝いの言葉をいただきました。二次会には、夕方から麻醉科学講座の同門会主催の祝賀会がある学先生に無理を言って参加してもらいました。同期生の他に初代麻醉科学講座教授の奥田佳朗先生もご参加いただき楽しい二次会となりました。

今回、学先生のお祝い事のおかげで、滅多に会えない遠方の同期生と県内の多くの同期生とも会うことができ、近況報告し合えた素晴らしい日となりました。

垣花学教授が我々の母校を牽引する存在となるように、応援したいと参加者全員が思った同窓会総会でした。

